

クールジャパン推進会議（第2回）の主なご発言

（秋元議員）

- ・ ヒットのためにはストーリーが必要。例えば日本酒で言うと、単純に利き酒会をやるよりも、日本酒というのは、熱燗・ぬる燗といった、ワインにはない温度の違いを楽しむ飲み方があるということ。
- ・ ストーリー作りのためのコンテンツで海外にPRするのは、日本の優秀なクリエイターたちに日本の仕事なんだと、日本のためにひと肌脱がないかというのを総理大臣の名前なのか、稲田大臣なのかでぜひ手伝ってくれということをやれば、嫌だと言う人はいない。ノーギャラでも総力を挙げてやってやろうというグループを作るべき。

（角川議員）

- ・ 東南アジアなどに日本のクールジャパンを指導する学校、大学をつくったらどうか。
- ・ クールジャパンを推進した現地の人たちに、大使館を通して顕彰する。そういう顕彰制度もあっていいのではないか。

（金議員）

- ・ MadeInJapanのスイーツフェアを海外でやりたいと考えている。
- ・ スイーツフェアをやる際には、日本のものづくりともコラボし、最初の実施場所は一番やりやすい台湾を考えている。日本で一度リハーサルをやるのもいい。

（コシノ議員）

- ・ ポーランドのファッションウィークへ参加し、ファッションだけではなく、食や伝統工芸や学生の交流や、色々な部分でジャパンファッションフェスティバルをやる予定。これに国策のクールジャパンで参加してもらえると良いと思う。
- ・ 日本食がおいしいと評価されるためには、味だけでなく、見た目、おもてなしなどトータルなファッション性が必要。

（千議員）

- ・ 茶の文化に触れたことのない外国人が一度体験する。すぐに忘れてしまうかもしれないが、いつか思い出話に出ることもある。このような小さな文化交流が、国と国との将来何か友好を深める何かの手立てになるのではないか。

（依田議員）

- ・ クールジャパンというのはローマ字で伝統、かわいい、楽しいなどという形で、日本語が即国際語になるような形で使っていくべき。そして、そ

の先兵として、クールジャパン推進機構の資金を利用するなどしてコンテンツ産業が現地で稼ぐ必要がある。

- ・ 安倍総理によるクールジャパン立国宣言、クールジャパン推進基本法によってクールジャパンを国として進めるということをきちんと体制づけていただきたい。

(三嶋氏)

- ・ 日本の洋菓子を政府主導でPRするのであれば、日本洋菓子協会連合会などとも共同して、官民連携でやるべき。

(増田氏)

- ・ 在外公館での日本酒のPR、とりわけ、民間ではなかなか難しい、国賓レベルの晩餐会などで海外の著名な芸能人、政治家等に対するPRをはじめ、一般の方へのPRを含め、国で主導して行ってほしい。

(小田氏)

- ・ 外国人へのおもてなしのためには、その国の宗教的な背景や商習慣を知ることやバーベキューや金魚すくいをやらしてもらう参加型の企画による工夫が大切。

(柴山総務副大臣)

- ・ 観光資源や特産品等と、マンガやネット等を含むさまざまなコンテンツを組み合わせて配信することが必要。

(山際政務官)

- ・ クールジャパンというアウトバウンドのほうはどうしても注目されるが、同様にインバウンドのほうも大切である。その観点から、文化財を観光資源として活用できるように、国宝・重要文化財という名称の変更を含めて検討してもらいたい。